

第五十二回卒業証書授与式及び第二十四回専攻科修了証書授与式告辞

本日、ここに、鈴鹿工業高等専門学校第五十二回卒業証書授与式及び第二十四回修了証書授与式を執り行うにあたり、ご来賓並びに保護者の皆様をはじめ、多数の方々のご臨席を賜り、喜びを分かち合えますことを、心から感謝し、お礼申し上げます。

本日、晴れて鈴鹿工業高等専門学校を卒業する二〇七名、専攻科を修了する二七名の皆様、そして、温かく見守り、強く支え続けられてこられました保護者の皆様、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。入学されてからの年月を振り返り、卒業生・修了生のみならず保護者の皆様にも万感の思いが込み上げていることと思います。

本校は、知・徳・体、三育の全人教育を建学の精神とし、勉学、課外活動などに積極的に取り組むとともに、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた、学科と専攻科を縦断する複合型生産システム工学プログラムにより、大学レベルの高度な工学教育も実施してきました。その中で、楽しかったこと、つらかったこと、うれしかったこと、悔しかったことなど、色々な思いが心をよぎっていることでしょう。もっと頑張ればよかったと反省することもあるでしょう。しかし、皆さんは、無事、この卒業、修了の日を迎えられました。誇りにし、自信にしてください。ただ、ご家族の方、先生方など、周りの人々の支えにより、このよき日を迎えることができたということを決して忘れないようにしていただきたいと思えます。

さて、鈴鹿高専には養成すべき人材像が四つあります。一つ目は、生涯にわたり継続的に学修し、広い視野と豊かな人間性をもった人材を養成することです。二つ目は、高い専門知識と技術を有し、深い洞察力と実践力を備えた人材、三つ目は、課題探究能力と問題解決能力を身につけた創造性豊かな人材、そして最後は、コミュニケーション能力に優れ、国際性を備えた人材です。あなた方は、実践力を伴った創造力を有する、国際的にも活躍できる、人間性豊かな人物に育ってほしいと願って教育を受けてきました。この人材像は、一生を通じ当てはまるものですので、人生の節々で折に触れて思い出していただきたいと思えます。

そして、皆さんの高専生活では、学業に加え、全力で取り組んだ課外活動や様々なイベント、そして海外研修も、キャンパスライフを豊かにしてくれたことと思えます。夏の体育大会や文化行事、エコカーレース、秋のロボットコンテストやプログラミングコンテストなどの各種コンテスト、高専祭や各種学会発表などを通じ、皆さんの素晴らしい成長する力を確認することができました。また、鈴鹿高専のホームページのフォト広報に記載されていますように、皆さんが受賞した数多くの表彰の喜びを分かち合うこともできました。理科系、文科系、体育系などの様々な分野からの表彰でしたが、鈴鹿高専が全国的に高い評価を受けていることを実感できた次第です。

本校は、私が校長に就任した二〇一二年に、創立五十周年の記念行事を執り行い、次なる五十年に向けて、新たに門出いたしました。その成果として、昨年四月には、専攻科を改組し、総合イノベーション工学専攻として、新たにスタートしました。新専攻は、専門分野の枠組みにとらわれない幅広い能力を有し、確かな技術力を兼ね備えた人材を育成することを目指し、環境・資源、エネルギー・機能創成、ロボットテクノロジーの三コースを設置しています。同時に、本科五年と専攻科二年の七年一貫の教育プログラムである、

グローバルエンジニアプログラムも併設しています。未来を見据え、変化する時代の要請に応えるべく、地域と世界を両輪にして、全国高専のトップランナーとして一層前進していく所存です。

さて、皆さんは、これから就職、進学など多様な道を進まれます。皆さんがこれから大人として生きる時代は、わくわくするような、しかし不安な時代になるかもしれません。「シンギュラリティ」、この言葉を皆さんは、耳にしたことでしょうか。二〇四五年に、パソコン一台の計算速度が全人類の脳すべてに比肩するようになるということです。何が起こるか、予測できない特異点とされています。現在のAI(人工知能)の進化をみると、そのようなことが起こるかもしれません。また、現在の職業の半数以上は、AIを持つロボットなどに取って代わられるとも言われています。

しかし、悲観することはありません。このような時代にこそ、人間の真価が発揮できるのです。人間とは何かを深く考え、その人間らしさが十分に発揮されるような時代にしなければなりません。AI、ディープラーニング、恐るるに足らずです。つまるところ、大量のデータを処理し、関係性を把握する、分析技術のスピードアップに過ぎません。人間の創造性は残るのです。人間は創造性を発揮することによって、存在価値をますます高めるのです。創造性は批判することから生まれてきます。そこには科学的思考に基づく批判力が必要です。批判すれば、非難されます。そこで抵抗力が必要になります。批判し、抵抗し、その先に創造が生まれます。皆さん、創造力を高める努力を一生続けてください。

最後に、皆さんにお伝えしたいことがあります。皆さんとともに、幾人かの教職員も新しい職場に、人生へと踏み出されます。長きにわたり教育に尽力していただいた生物応用化学科の澤田教授、材料工学科の宗内教授、そして事務サイドからサポートをいただいた竹中課長補佐、早川係長などの方々です。これらの方の思いもひとしおかと思えます。この場を借りまして深く感謝申し上げます。

私も六年間の鈴鹿高専での校長生活を終え、無事卒業いたします。この六年間で一一九六名の卒業生、一七〇名の修了生を世に送り出ささせていただいたことは、私の生涯の誇りです。同時に、多方面において、至らぬ私を支えていただき、素晴らしい思い出をつくっていただきました皆様方すべてに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

結びにあたり、卒業、修了する皆様方が、充実した思い出深い高専生活での学びや経験を貴重な財産として、立派な人間に育ち、幸せな人生を送られることを、また、本校が「地域に根差し、世界に羽ばたく、クリエイティブな鈴鹿高専」として、益々発展することを祈念するとともに、本日の式典にご多用中にも関わりませず、ご参加いただきました、ご来賓、保護者の方々に厚くお礼を申し上げ、私の挨拶とします。

平成三十年三月十六日

鈴鹿工業高等専門学校長
新 田 保 次